

平成 22 年度 大学院看護学研究科授業評価アンケート集計結果に対する考察

研究科長 草間 朋子

- 全 12 科目の集計結果は、別添資料の通りである。
- 回答率が 58.8 %は、学部の授業評価に比べて低い。できるだけ多くの学生から回答を得ていくことが、授業の質を向上させるために必要であり、今後は回答率を上げるよう努力していく。
- 授業、演習（実習は 1 年次生に対しては実施されていない）に対して、不満を示した学生は回答者の 10%未満であり、校舎や教材等が不十分の中でスタートした初年度の結果としては、まずまずであると考えている。しかし、不満を表明する学生の割合を減らすことが、大学側の責任であり、今後改善していきたい。
- 「授業、演習が、将来の活動に役立つと思うか」の質問項目に、90%近い学生がポジティブな回答をしたことに、安堵している。学生の自由記載の内容等を参考に、さらに改善を図っていきたい。
- 科目毎の、授業評価結果は、自由記述も含めて科目担当の教員に、直接渡し、今後の授業の組み立て、進め方等の参考にしようお願いしている。
- なお、大学院では、本邦初のクリティカル領域の診療看護師の養成教育であり、医学教育が中心であるので、講義、演習のかなりの部分を、臨床教授である医師等に依頼している。
- 初年度であるために、とくに、演習等に必要な教材を大学側が十分揃えることができなかつたこと等も関連し、「教材・教具」に対する学生の満足度は、他の評価項目に比べて低かつた。これは、学生だけではなく、授業や演習を担当していただいた臨床教授にもご迷惑をかけているものと予想されるので、関係部局と、相談の上、今後、順次整備していきたい。

以上